



保険者機能を推進する会「保険者フェスタ」(11.20)

「保険者フェスタ」で活動の成果を共有

保険者機能を推進する会

121の健保組合等で構成す

る保険者機能を推進する会(代
表理事長=三菱健保組合理事
長・藤代勉氏)は11月20日午後、

「保険者フェスタ2025」を開催した。

従来は講演会形式の「保険者機能推進全国大会」を開催していたが、同会の研究会が活動の成果を持ち寄る研究会を開催していた。

健診事業のあり方研究会企画による特別講演会は、「がん検診の『質』を守るしくみ」をテーマに、国立がん研究センターがん対策研究所研究員の高橋宏和氏が「がん検診の利益・不利益と精度管理の基本」、摂南大学農学部食品栄養学科教授の小川俊夫氏が「がん検診精度管理システム」の運用から見えてきたこと」と題して講演した。

小川氏は、職域の精密検査受診率は50~60%で地域よりも20ポイント程度低く、課題があることを指摘し、厚生労働科学研究所の古井祐司氏は、「健保組合自らが知識だけでなく、実践を共有し、本音ベースで意見交換ができる」としている。各研究会の特徴を活かし、参加者の思いを大事にして活動を続けてほしい」と述べた。なお、参加者数は会場450人、オンライン150人で過去最高となつた。

全体講評を行った東京大学未来ビジョン研究センター特任教授の古井祐司氏は、「健保組合の古井祐司氏は、「健保組合自らが知識だけでなく、実践を共有し、本音ベースで意見交換ができる」としている。各研究会の特徴を活かし、参加者の思いを大事にして活動を続けてほしい」と述べた。なお、参加者数は会場450人、オンライン150人で過去最高となつた。

厚生労働省保険局の佐藤康弘保険課長は、「職域におけるがん検診は政府においてもホットトピックとなつて。精度管理や自治体検診との連携をどうするかなど課題はあるが、保険者の立場からどのような課題があるかも含め、忌憚のない意見をいただきたい」と述べた。

講演会で高橋氏は、がん検診で重要なことは受診率向上だけではなく、エビデンスのある「正しい検診」を、精度管理を行い正しく実施することと強調した。また、検診で発見できるがんには限界があることから、他の予防策を併せて実施する必要性を指摘した。

来ビジョン研究センター特任教授の古井祐司氏は、「健保組合の古井祐司氏は、「健保組合自らが知識だけでなく、実践を共有し、本音ベースで意見交換ができる」としている。各研究会の特徴を活かし、参加者の思いを大事にして活動を続けてほしい」と述べた。なお、参加者数は会場450人、オンライン150人で過去最高となつた。

掲示板

健保組合の動き――

事務所移転

▼GWA健保組合=〒108-0014 東京都港区芝4-9-4 芝浜ビル7F □、■は従来通り

▼西日本パッケージング健保組合=〒551-0004 大阪市西区靭本町2-3-2 なにわ筋本町MIDビル8F □、■は従来通り

▼ニチバン健保組合=〒102-0083 東京都千代田区麹町5-1 麹町弘済ビルディング6F □、■は従来通り